



# まごころ

“ずーっと笑顔”で安心できる、やすらぎの暮らし

ちよつと一息、  
飲み物どうぞぞ!!



今号の表紙

近所にある保育園の子どもたちがお散歩に来てくれました。

## 大切な人

第1回

まごころの杜看護師 小野澤 範子



いつも元気な声で、まごころの杜を明るくしている小野澤さん。とてもパワフルでご利用者様からもスタッフからも頼りにされる存在である。

「大丈夫！ 両方やることで、とても勉強になっているから」と笑顔で応える「クリニックでは、さまざまな症状の方が見えるので、疾患についての知識が養われます。その一方で、まごころの杜では、医師が常駐しているわけではないので、看護師の観察力や判断力はとても大切になってくる。クリニックでの経験は確実に役立っています」

「まごころの杜では、病院と違ってその時だけではなく、ご入居者様と共に過ごす時間が長いこともあり、処置だけではなく、時には家族のように、そして時には仲間のように、寄り添う小野澤さんの姿がある。最後に今後の抱負を尋ねると「ご入居者様にとって、過ごしやすい環境作りやサポートをしていきたい。影武者のように!!」と、小野澤さんらしい言葉の中に、看護師としての強い志を感じることができた。



## まごころコラム No.1

コロナ感染症感染拡大による緊急事態宣言が昨年解除となり、新規感染者の発生が低い水準で推移している中、まごころの杜においても、少しずつですが以前の日常が戻りつつあります。そこで、昨年末より十分な感染対策を行った上で、ご入居者様とご家族様とが直接お会いいただけるよう面会方法を一部緩和し対応させていただいております。ご入居者様もご家族様もともうれしうにお会いになられているのを目の当たりにしますと、この状況が1日でも長く続くことを願うばかりです。

しかし、また新たな変異株が世界で広がりを見せており、今後、県内の感染が広がれば、私共もその状況に合わせた対応をしていかなければなりません。引き続き、基本的な感染対策を怠らず、安全・安心に過ごせる1年にしたいと強く思います。

担当：小林

## 今号の BEST SMILE

『大きなさつまいもが収穫できました』



**お知らせ**

**イルミネーション**  
現在、まごころの杜の敷地内にてイルミネーションが点灯しています。2月まで開催していますので、近くに来られた際は、ぜひご覧になってください。

**直接面会について**  
茨城県の感染症状況を踏まえ、まごころの杜では、直接面会を再開しました。直接でのご面会をご希望されるご家族様は、事前のご予約とワクチン接種証明の提示が必要になります。ご希望される方はお問い合わせください。また、地域の状況によっては、面会方法が急に変更になる場合がございます。ホームページなどでもお知らせいたしますので、ご確認ください。

**編集後記**  
年の初めの広報誌は、スタッフの「想い」を皆さんにお届けしました。さまざまな職種スタッフが自分の役割や責任と向き合う姿に、改めて強い志を感じました。



社会福祉法人 関耀会 特別養護老人ホーム

# まごころの杜

<https://sekiyoukai.or.jp/>



〒308-0845 茨城県筑西市西方1667  
Tel. **0296-28-8556**

まごころの杜公式 Facebook



## 目次

- 行事紹介..... 2
- 座談会「ご入居者様の人生に寄り添う」..... 3
- 新年のごあいさつ..... 3
- 大切な人..... 4



特養&ショートステイ

運動会を開催しました!!

ご入居者様とスタッフが一緒になって、運動会を盛大に開催しました。玉入れやパン食い競争を行うと、童心に帰ったようにキラキラした表情で楽しまれていました。勝負は、白黒ははっきりさせることでより燃えるもの。皆さん真剣勝負で挑んでいただきました。勝ったユニットにはトロフィーを贈らせてもらい、喜びを分かち合っていました。



菊祭りに行ってきました。

下妻にある大宝八幡宮の菊祭りに行ってきました。色とりどりの大輪の菊を、皆様食い入るようにご覧になっていました。感染症の心配はありますが、少しでも外に出て気分転換になればと人手の少ない時間を見計らい外出してきました。やはり外の空気はいいですね、良い気分転換になりました。



ハロウィンパーティー



10月31日は、ハロウインの日。高齢者の方はハロウィンなんて馴染みがないとおっしゃるとは思いますが、「楽しんでやればこっちのもの」。ご入居者様と一緒に仮装をして楽しみました。また、かぼちゃのプリンを手作りしてみんなと試食。いつもと違う雰囲気によりおいしく感じました。

デイサービス

日々の活動について

毎日日替わりで、各種レクリエーション活動を実施しております。活動の一つひとつに季節を盛り込んだ活動を行っております。この日は、東北の芋煮を作りました。また、書道をしたり、しおりや壁画などお一人ひとりが楽しめるものをめいめいに取り組んでいただいています。



運動会inデイサービス



デイサービスでも運動会を開催しました。「全力勝負!!」のスローガンのもとに、ご利用者様・職員一同、紅白チームに分かれ対戦勝負をしました。今年のメインの競技は、新聞棒早巻競争とスタッフの飲み物早飲みリレーでした。水・牛乳・コーラを各500ml、計1.5Lを早飲みしてから次のスタッフにバトンを渡すという過酷なゲームをしました。スタッフは夢中でしたが、ご利用者様は応援しながら早飲みをする姿を見ながら大笑い。とっても楽しんでいただけようでした。

野外活動報告

園芸クラブでは、冬の花を植える準備をするため、花壇のどんぐり拾いを行いました。また、お野菜クラブでは、白菜や大根の種まきをしました。野菜作りのいろはをご利用者様に伝授していただきながら、日々活動を行っております。



相原 陽子(看護師) 看護一筋、病院での経験を経て福祉施設での看護に奮闘中!

昔は、「自宅で家族に囲まれながら最後を迎える。そんな光景は珍しくなかつたのではないだろうか。さまざまな社会状況が変わる中で、最後の場所に病院を選ぶことも増え、自宅でお看取りしていく、そういうことが少なくなってきた。一方で特養は、要介護3以上の方を対象としており、入所された方ほとんどの方が「自宅に戻られることはなく、もう一つの家としてお過ごし」いただいている中で、施設での「看取り」は、特養の中でも大切な役割となっています。今回は現場のスタッフがご入居者様の人生にどう寄り添っていくのか、話を聞いてみました。

相原 元気なところはどんな仕事を、どんな人だったのか。入所する前にさまざまなお話を聞き取る機会がありますが、すべてを把握することは難しい。それでも、年齢や家族構成、今ある情報から、その人の人生に想いを寄せて支援する大切さみたいなものはいつも心に留めています。

相原 私は、看護師としてご本人様が安心して過ごせる環境を整えることに力を注いでいます。ご家族様も迷いや葛藤がある中で、いろいろなことを決めていく。私たちもその気持ちに応えられるよう、命を預かるという責任感を持って支援していきたく思います。

末筆ながら、皆様の今年一年のご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

役割・使命であると認識し、これからも地域の皆様と共に歩んでまいります。また、社会福祉法人として、これからも引き続き地域社会での支援に取り組みしていくことが私たちの大きな役割です。ご利用者様が笑顔で過ごされることを、当たり前のように感じたいです。ご利用者様やご家族の皆様が笑顔で過ごされることを、当たり前のように感じたいです。ご利用者様やご家族の皆様が笑顔で過ごされることを、当たり前のように感じたいです。

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこと、心からお慶び申し上げます。2022年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。社会福祉法人関耀会まごころの杜は、2017年の開設より5年目の新春を迎えることができました。これもひとえにご利用者様、ご家族の方々、地域の皆様並びに関係機関の皆様方の多大なるご支援とご指導の賜物と、深く厚く感謝申し上げます。



社会福祉法人関耀会 副理事長 葉 章二

新年のごあいさつ

もう一つの家としての役割

「第2の居場所」として、まごころの杜で何か意識していることはありますか。 関口 私は、デイサービスで通われるご利用者様が、自宅では難しいけれど、デイサービスでならまだまできるといふことを増やしていきたいと思っています。 自宅では「誰かが見ていないと危ない」といった料理や畑仕事など、見守りの目があることでまだまだできることをデイサービスでできる。ということ、自信をつけてほしいなと思っています。 誰でも、家で過ごすことが一番だと思われていると思います。でも、それがなかなか難しい。そんな中で、自分の好きなことがデイサービスでできれば、デイに行く必要が出てくる。家族に言われて利用していただくのではなく、行く理由がご本人様にある。そんなデイを目指しています。



関口 昌代 デイのセンター長、「一人ひとりが楽しめること」を生み出せるスペシャリスト

沼尻 特養でも、同じです。少しでも自分でできることをやつてもらえるようにしています。例えば、洗濯ものを畳んだり、季節に合ったお部屋の飾りなどを一緒に準備していただいたり、スタッフだけが、一人歩きしないよう心掛けています。あとは、お話をしてもらうということ。スタッフは、「聞く」ということも大切にしています。 男性と女性では、支援の仕方が違ったりしますか。 関口 男性の方は、もともと女性のようには会話なども多くないので、デイに来てもお話で盛り上がるなんてことはあまりないです(笑)。でも、知識や経験は私たちがなかなかもけた違いであって...



沼尻 正 介護長として、日々ご入居者様の安心と安全を守る。とても穏やかに温かい存在

沼尻 確かに、男性の方は会話を楽しむという感じではないですね。特養の方では、現在男性のご利用者様が、約15%程度です。女性の方の方が圧倒的に多い中で、男性のご利用者様向けの支援は意識しないと、通り過ぎてしまいうることもあります。私も関口さんと同じで、昔の経験を聞きながら、さまざまなことを教えていただいています。お話を聞くというよりも、教えてもらう。そんな姿勢が大切だと思っています。 後は、散歩なども頑張っています。ご利用者様もいらつしゃいます。ご自分で決めた分を毎日コツコツと。すごいなって思います。なので、スタッフは声を掛けたりしながら継続できるようにしています。 関口 できることを増やしていくって、その方の自信につながっていくと思います。ここなら、自分らしく居られると思えることが、居場所作りになっていくと思いますので、これからもご利用者様のできることに視点を向けて支援していきたいと思っています。

沼尻 特養も同じです。「選ぶ」ということも大切だと思います。先回りしてなんでもやってしまうのではなく、その人に些細なことでもお聞きしながら、その人らしく生活していただけるよう、支援していきたいと思っています。

座談会

ご入居者様の人生に寄り添う



山本 尚美(ケアスタッフ) ユニットリーダー、いつも穏やかに頼りになるベテランスタッフ!

山本 介護員としては、できることは限られてしまう。お顔を拭いてあげたり、体の向きを変えてあげたり、体をきれいにしたり...。その人が好きだったものを食べさせてあげたい、外の様子も見せてあげたい。いろいろな想いはあるけど、その日の体調によっては思うようにできないという歯がゆさを感じ、これまでたくさんのお看取りを経験しても、新井さんと同じ「もつとできることはなかったのか」という気持ちは残っています。 相原 病院では、「治療」が目的でした。病気を治すことが最後まで自分たちの役割であつた。なので、患者様の清潔や望む最後というもののに対し、施設と病院では全く感覚が違います。福祉施設では「生活」が中心。介護スタッフが身の回りの支援をする。ここで、ご入居者様が過ごしやすい環境を整えてくれるので、私たち看護師はそこに医療を携える、ご利用者様が安楽に過ごせるよう、多職種で連携ができる心強さをいつも感じています。 山本 まごころの杜では、ご家族様とご利用者様のつながりを大切にしたい。コロナ禍であっても大切にしていくよね。コロナ禍であっても、看取り期に入ったご入居者様とご家族様との面会は柔軟に対応しています。 ご入居者様も家族に見送られながら、そしてご家族様も...。お互いが安心してその時を過ごしていただけるようにこれからはしていきたいなと思っています。



新井 沙羅(ケアスタッフ) 介護歴3年目、介護福祉士取得に向けて猛勉強中!

新井 私も人ひとりのご入居者様にも、もつとできるような環境を整えていきたいと思います。 山本 これまでいろんな対応をしてきました。ベッド上で過ごすことが多くなるご利用者様の回りに、家族の写真をたくさん飾ったり、お祭りが大好きな方には、お雛子の音楽を流したり...。 相原 ご家族様も、ご本人様に対して何かしてあげたい!そんな気持ちから、協力してベッド上でシャワーもしました。 山本 これからも、いろんな方を支援していきたく、その方々の気持ちに寄り添って支援していきたく思っています。